

第10回「西高フォーラム」

—公開シンポジウム—

ご案内



共催 一般財団法人西高会
都立西高同窓会
後援 杉並区教育委員会

一般財団法人西高会と都立西高同窓会では、本年も、杉並区教育委員会の後援を得て、「西高フォーラム」を下記の通り開催いたします。今年は留学について、西高生徒による討論と同窓生の経験者による討論を行います。広く地域の皆様をはじめ生徒、保護者、教職員、同窓生のご参加をお待ちしております。土曜の午後のひととき、お楽しみ頂きますようご案内申し上げます。

(このご案内は、近隣の方々や西高関係者に行っております。)

- 日時 : 2014年7月19日(土) 13時10分～16時25分 開場12時30分
- 会場 : 都立西高視聴覚ホール(西高正門を入れて左側の建物)
- 入場無料、車でのご来場はご遠慮願います。

第1部 在校生によるシンポジウム

13:10～14:15

『海外研修を終えて』

第2部 同窓生によるシンポジウム

14:25～16:25

『体験者とともに海外留学を考える

—いかに価値を高め、いかに困難を克服したか—

『海外研修』: 都立西高の海外交流事業・・・海外リーダーシッププログラム

加速度的にグローバル化が進展する中、生徒が社会で活躍する20年後・30年後を見据え、『世界に通用する大きな器』をもった生徒を育成することを目標に、西高独自の「海外リーダーシッププログラム」を実施いたしました。

平成26年3月22日(火)～31日(日) ポストン・ニューヨーク研修、40名参加

●ポストン

ハーバード大、マサチューセッツ工科大での講義体験、研究所訪問/ハーバード大、マサチューセッツ工科大の学生、大学生との交流/ゲストスピーカーからのレクチャーおよびディスカッション(夜のイブニングクラス)/ポストン近郊の高校訪問

●ニューヨーク

国連本部で「国連開発計画」職員からのレクチャー、西高同窓会ニューヨーク支部との交流/ニューヨーク・マンハッタン見学

フォーラムについての問合せ先 同窓会事務局
TEL 03(3247)0765

『体験者とともに海外留学を考える』

—いかに価値を高め、いかに困難を克服したか—

わが国が真の変革を成し遂げるためには、従来の画一的な教育や能力判定では困難な、「多様性」への理解や、個人として生きぬく「強靭さ」が必然的に求められる。そのための知識や能力の有効な獲得手段として、留学や研修などの国際経験、とりわけ若い時代における海外留学が挙げられる。

時代の変化や地域社会との関わりも考慮すれば、常に単なる受験校であることを否定してきた西高の良き伝統と、優秀であると同時に多彩な生徒の個性と価値観、そしてそれらを支える杉並区の地域としての先進性が、西高を核として国際化を加速するプログラムの可能性を示唆している。

今回は公開シンポジウムの一環として、海外経験をひとつの契機として、ユニークな活躍をされている「成功例」としての大先輩と、今後の不連続な飛躍を目指して海外でのチャレンジを選択した若い身近な先輩をパネルに招き、その実体験から得られた、あるいは得たいと考えている、自らの成長における「インパクト」を紹介頂き、さらには参加者との活発なやり取りを期待している。



コーディネーター

香山 晋 氏 (西 13 期) (株)Kアソシエイツ代表取締役社長、元株式会社 東芝 上席常務

パネリスト

杉田 明子 氏 (西 29 期) 外務省総合外交政策局政策企画室企画官

大学3年の夏期休暇にスペイン語学留学を兼ねて2ヶ月間ヨーロッパに滞在。この経験によって海外交流の醍醐味を実感し、国際的な仕事に就くことを決意。外務省入省後の海外研修で2年間米国留学。その後、米国(シカゴ、サンフランシスコ、国連)に合計10年在勤し、パブリック・ディプロマシー、国連総会などを担当。

藤谷 健 氏 (西 34 期) 朝日新聞ソーシャルメディア・エディター

大学2年で参加した「青年の船」プログラムで、東南アジアの同世代の若者と2ヶ月間交流したことをきっかけに、途上国、とりわけ開発や貧困などの問題に関心を持つ。学部時代に交換留学でフィリピンに1年間留学。さらに体系的に学ぶため、入社後にロンドンの大学院で修士号を取得。これまでローマ、ジャカルタ、バンコクに計10年間滞在し、紛争や災害、文化、スポーツなどあらゆる分野の取材を重ねる。

大沼 太兵衛 氏 (西 49 期) 国立国会図書館 利用者サービス部

勤務先の国立国会図書館から、長期在外研究員としてパリの国立古文書学校へ派遣(2年間)。フランスの伝統的な書誌学、古文書学、書物史等に加え、文化遺産を扱うためのデジタル技術全般を学び、実務研修生としてフランス極東学院に勤務する。修士号を取得後、帰国。現在は国立国会図書館で、主に音楽分野の資料整備やレファレンス等を担当している。

渡辺 悠樹 氏 (西 57 期) カリフォルニア大学バークレー校 PhD 課程在籍

理論物理学の研究者となる事を目指し、東大卒業後そのまま同大学院へ進学するも、「ここでさらに5年間過ごした後の自分の姿」が容易に想像できてしまい、より自分を成長させられるチャレンジングかつエキサイティングな環境を求め渡米。ティーチングアシスタントや奨学金によって給料をもらいながら研究する日々を過ごしている。現在は3年目が終わり、卒業後のポストに応募を始めた段階。

浅尾 由希 氏 (西 64 期) 早稲田大学政治経済学部3年

高校入学以前から留学に漠然とした興味は持っていたものの、機会に恵まれることなく日本で大学進学。学部1年次にフィリピンでの1週間の海外ボランティアを経て、国際交流/協力に対する自身の関心を再確認し、留学への意欲をより高める。学部2年後期より早稲田大学の1年間交換留学プログラムを利用して留学、アメリカ・カリフォルニア州の大学で国際関係学を専攻。2014年秋より早稲田大学に復帰予定。

横山 つや 氏 (西 65 期) ニューヨーク州立ストーニーブルック大学1年(人類進化学専攻)

中学3年でAFS年間プログラムの試験を受け、高校入学後1年生の8月からアメリカカンザス州にホームステイ。留学中にアメリカの大学に進学する決意を固める。帰国後、2年次にイオン1%クラブ「Teenage Ambassador」プログラムに参加し、インドネシアに一週間滞在して現地の高校生と交流。卒業後、昨年秋からニューヨーク州ロングアイランドにある State University of New York Stony Brook University に通う。